

Q.1 麻しんとは どのような病気ですか。

- 麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる病気で、感染の約10日後に、38度程度の発熱やかぜ症状がはじまり、2～3日発熱が続いたあと、39度以上の高熱とともに発しんが出現します。時には脳炎を発症するなど重症になることもあります。
- また、麻しんの感染により、全身の免疫力が低下するため、他の細菌などに感染しやすくなります。このため、肺炎や中耳炎などを合併することもあります。
- 麻しんの感染力は極めて強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ必ず発症します。
- 1歳をピークとし、乳幼児がかかりやすい病気ですが、成人もかかることがあります。

Q.2 麻しんにかかったら どうすればよいのですか。

- 特別な治療法はありません。症状を少し楽にする方法（対症療法）が行われます。

Q.3 麻しんを世の中からなくすことはできますか。

- 予防接種の徹底により、かつて天然痘が根絶され、現在ポリオが根絶されつつあるのと同様に、国際的には麻しんという病気をなくすための取り組みがWHO（世界保健機関）を中心として進められています。
- わが国でも、麻しんという病気をなくすための対策について、厚生労働省で検討を行っています。

国立感染症研究所感染症情報センターでは、ホームページ上で、麻しんについて解説していますので、こちらもご参照ください。

アドレス http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_03/k03_03.html

Q.1 流行性耳下腺炎とは どのような病気ですか。

- ムンプスウイルスに感染することにより、両側のほおが腫れる病気で、耳下腺の腫れが2日以上続きます。「おたふくかぜ」とも呼ばれ、一部（3～10%）に髄膜炎を合併することがあります。
- 冬から初夏にかけて流行し、3～6歳に多く起こります。
- このウイルスに感染した場合、1歳児では症状が出るのは20%程度ですが、4歳以降では90%程度、症状が出ます。

Q.2 流行性耳下腺炎にかかったら どうすればよいのですか。

- 特別な治療法はありません。症状を少し楽にする方法（対症療法）が行われます。

Q.3 その他、注意することはありますか。

- 思春期以降の男性では25%に睪丸（こうがん）炎を合併し、女性では30%に乳腺炎を合併することが知られています。
- 妊婦が感染した場合には自然流産することがあります。



国立感染症研究所感染症情報センターでは、ホームページ上で、流行性耳下腺炎について解説していますので、こちらもご参照ください。

アドレス http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_35.html